

引用文献

- Ann J.Davis.(2002). 坂川雅子(訳), Ann J.Davis(監)見藤隆子,小西恵美子,坂川雅子(編),看護倫理理論・実践・研究(pp.13-15).日本看護協会出版会.
- 青柳優子.(2016).医療従事者の倫理的感受性の概念.日本看護科学会誌,36,27-33.
- 麻原きよみ.(2012).「あきらめる」「もえつきる」その前に ジレンマから学ぶ保健師の倫理的課題】
【事例検討の実際】「あきらめさせない」「もえつきさせない」ための組織的支援(解説/特集)
.保健師ジャーナル,68(7), 592-594.
- 麻原きよみ,小野若菜子,大森純子,橋爪さつき,井口理,池谷澄香,小林真朝,三森寧子,宮崎紀枝,長澤直紀,佐伯和子,留目宏美.(2019).自治体で働く事務職と保健師がとらえる保健師の仕事に関する認識.日本公衆衛生看護学会誌,8(2),80-88.
- Fry ST,Johnstone MJ.(2008/2010). 片田範子,山本あい子(訳),看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド(pp185-190).日本看護協会出版会.
- 藤野昭宏.(2019).特集 公衆衛生の実践倫理:産業保健における実践倫理,公衆衛生,83(3),196-201.
- 藤野昭宏.(2019).【公衆衛生の実践倫理】 産業保健における実践倫理(解説/特集).公衆衛生,83(3),196-201.
- 藤田麻理子.(2015).産業看護職の健康情報取扱いにおける困難.日本産業看護学会誌,2(1),16-23.
- 鳩野洋子,嶋津多恵子,丹野久美,富山紀代美,宮崎美砂子,斉藤恵美子,椎葉倫代.(2016).倫理委員会報告:公衆衛生看護の日常活動・実践研究における倫理に関する実態調査の結果報告.日本公衆衛生看護学会誌,5(3),266-272.
- 服部健司,伊東隆雄(編著).(2018).医療倫理学の ABC 第 4 版(pp.132).メヂカルフレンド社.
- Henderson, Virginia.(1961/2016).湯楨ます,小玉香津子(訳),看護の基本となるもの.日本看護協会出版会.
- 久井 志保.(2013).産業保健師が行うワークファミリーコンフリクトケアの構造に関する研究 産業保健師へのインタビューの質的分析を通して.インターナショナル Nursing Care Research,12(3),31-37.
- 五十嵐千代.(2020).第 1 章活動場所の特性に応じた活動論.宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子(編),最新公衆衛生看護学第 3 版 2020 年版各論 2 (pp48-49).日本看護協会出版会.
- 井口理.(2014).行政保健師の「仕事の要求」と「仕事の資源」の概要の明確化.日本公衆衛生看護学会誌, 3 (1),11-20.
- ILO.(1998).Technical and ethical guidelines for workers'healthsurveillance. ILO, Geneva, 1-40.

- 石川真子, 錦戸典子.(2014).新人期の産業看護職における職場のメンタルヘルス活動の実施状況、困難感、および知識・技術の保有感.産業衛生学雑誌,56(1),1-15.
- Jan Reed, Ian Ground.(1997/2001). 原信田実(訳),考える看護—ナースのための哲学入門.医学書院,156-160.
- 河野啓子.(2008).産業保健・産業看護論(pp.31-32).日本看護協会出版会.
- 河野啓子.(2013).産業看護別冊.Q&A でわかる産業看護実践 基礎から応用まで-産業看護職必携(p.72-74).メディカ出版.
- 河野啓子.(2015).産業看護職に求められるコンピテンシーとは.産業保健と看護, 7(3),58-61.
- 河野啓子.(2019).産業看護学第2版(2020年版)(pp.14,pp.285-286).日本看護協会出版会.
- 河野啓子, 後藤由紀, 畑中純子, 野口多恵子,吉川悦子.(2013).産業看護職に必要とされるコンピテンシーならびに産業看護教育のあり方に関する研究.文部科学省科学研究費補助金報告書.
- 児玉聡.(2019).【公衆衛生の実践倫理】公衆衛生における実践倫理 公衆衛生の倫理学とその諸課題(解説/特集).公衆衛生,83(3),172-176.
- 経済産業省/中小企業庁.(2019).年版中小企業白書 全体版- https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2019/PDF/chusho/00Hakusyo_zentai.pdf
- 経済産業省. 健康経営の推進.https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kenko_keiei.html
- 厚生労働省.(2019).平成 30 年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況.<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/18/dl/gaikyo.pdf>
- 厚生労働省.平成 30 年労働安全衛生調査（実態調査）. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/h30-46-50b.html>
- 厚生労働省.保健師助産師看護師法. <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/04/s0428-7f.html>
- 厚生労働省.ストレスチェック等の職場におけるメンタルヘルス対策・過重労働対策.<https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei12/index.html>
- 神徳和子,池田清子.(2017).看護倫理学における道徳的感受性と倫理的感受性の意味.日本看護倫理学会誌,9(1),53-56.
- 三宅琢.(2019).産業保健における合理的配慮のあり方.健康管理,799,2-14.
- 三宅琢.(2020).ヤフー株式会社の産業保健体制から考える産業保健における対話の重要性.産業精神保健,28(3),254-258.
- 宮坂道夫.(2018).第1章看護倫理を学ぶために.宮坂道夫(編),看護倫理 第2版(pp.18).医学書院.

- 宮脇美保子.(2020).改訂身近な事例で学ぶ看護倫理(pp.168).中央法規出版.
- 望月友美子, 西川 浩昭. (2018). 産業看護活動上の困難の構成因子と事業所規模別の相違.
日本健康学会誌 ,84(2),39-51.
- 森田汐生.(2016).モヤモヤ気分にはさようなら!業務が楽しくなるコミュニケーション技術(第7回)工場長と産業医の板ばさみになって困っています……(解説).産業保健と看護,8(1) ,42-45.
- 日本看護協会.平成30年度 保健師の活動基盤に関する基礎調査 報告書(平成30年度 厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業) .<https://www.nurse.or.jp/nursing/hokenshi/kanren/kisochocha/index.html>
- 日本産業衛生学会.(2000).産業保健専門職の倫理指針.<https://www.sanei.or.jp/?mode=ethics>
- 日本産業保健師会.倫理綱領.<http://sangyohokensi.net/rinri.html>
- 錦戸典子.(2014).産業看護職としてのアセスメント力を高めるための視点とスキル.産業看護,6(6), 466-470.
- Nishikido Noriko, Yoshikawa Etsuko, Sasaki Minako, Sudo Jun, Ito Michiyo, Watai Izumi .(2020).Sense of Difficulty in Providing Support for Balancing Cancer: Treatment and Work Among Occupational Health Nurses 日本健康学会誌,86(2),65-75.
- 岡本明美.(2013).がん術後患者の職場復帰を支援するプログラム作成への示唆 産業看護職によるがん術後患者への職場復帰支援の現状から.医療看護研究,10(1),52-56.
- 大神あゆみ.(2014).公衆衛生看護学テキスト第4巻公衆衛生看護活動Ⅱ学校保健・産業保健(pp.118).医歯薬出版.
- 大森純子,小林真朝.(2012).【「あきらめる」「もえつきる」その前に ジレンマから学ぶ保健師の倫理的課題】保健師活動の特徴から生じる保健師の葛藤と倫理的課題 地方自治体での役割を中心に(解説/特集).保健師ジャーナル,68(7),562-565.
- 佐々木久美子,末永カツ子,藪田歩. (2012)産業看護職における CSR(企業の社会的責任)の認識プロセス.東北大医保健学科紀要,21(1),7~23.
- 総務省統計.(2019).労働力調査.<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index.pdf>
- 白浜雅司.(2000).医療職を目指す学生の倫理的感受性をいかに育てるか—医学生への臨床倫理教育の経験から—看護教育,41(4),260-266.
- 新保舞子,八代利香.(2019).保健師が抱く倫理的課題に関する文献検討.鹿児島大学医学部保健学科紀要,29(1),63-70
- 飛世照枝,坂井桂子.(2012).倫理カンファレンスに対する看護師の意識.日本看護倫理学会誌,4(1),1

5-21.

鶴若麻理.(2012).「あきらめる」「もえつきる」その前に ジレンマから学ぶ保健師の倫理的課題】
なぜ割り切れない思いやジレンマを感じるのか(解説/特集).保健師ジャーナル,68(7),558-5

61.

富永真己, 西村美八, 南朗子.(2015).心の健康問題による休職者の復職支援における組織の課題事例
対応を経験した中規模事業所の産業看護職の視点から.保健師ジャーナル,71(3),234-241.

四日市地域研究機構産業看護研究センター.(2011).平成 22 年産業看護活動実態調査報告書～産業
看護の方向性と課題～.1-36.

山崎恭子, 錦戸典子, 佐々木明子.(2011).実践の場で働く産業保健師の保健活動における技術.お茶の
水看護学雑誌,5(2),40-49.

吉田みつ子, 石原逸子.(2018).第9章 倫理的問題へのアプローチ.宮坂道夫(編),看護倫理第2版(pp.
139-140). 医学書院.

崎山紀子, 錦戸典子.(2019).産業保健師の産業保健活動から見た中小企業におけるがんを含む疾病
を持つ社員の治療と就労の両立支援の現状と課題. 日本健康教育学会誌,27(1),115-119.